



平成30年度南丹美術工芸パートナーズスクール事業

高校と連携し、児童がより専門的な指導を受けて作品を制作することを通して、美術に関する表現の技能の向上を図るとともに、美術工芸への興味・関心を高め、文化の継承と発展への基礎を培うことをめざして、南丹美術工芸パートナーズスクール事業を開催しています。

亀岡市立千代川小学校 & 亀岡高等学校

千代川小学校 4年生 91名(3クラス)が亀岡高校 普通科美術・工芸専攻 1年生 31名の生徒から指導を受けて、5月9日(水)、30日(水)の2日間にわたり、愛鳥週間ポスターの制作に取り組みました。

1日目は、始めに亀岡高校の先生から絵を描くポイントとして、「楽しんで」「こだわって」「よく見て」描くことを教えていただきました。その後、子どもたちは各教室に別れてポスターの下描きに取りかかりました。高校生1名が小学生3~4人のグループを担当し、鳥の写真や高校生がスケッチブックに書いてきた絵を手本にしながら、丁寧に教えていました。中にはスケッチブックにその場で絵を描きながら教えている高校生もあり、素早くて確かな線で描かれるスケッチに、子どもたちは歓声をあげていました。どこから描き始めればよいのか迷っている子どももいましたが、高校生から「まず、おおまかに鳥と文字の位置を決めるといいよ。」と声をかけられたり、「ここは鳥の羽のふわふわした感じにこだわってみよう。」などとアドバイスを受けたりしていました。指導を受けた子どもたちは集中した様子でポスターに取り組んでいました。

2日目は、文字のレタリングを行いました。高校生が持ってきてくれた字体や大きさの違う「愛鳥週間」の文字の中から、自分の作品に合うものを選び、作品にその文字を綺麗に書き写した後で、絵の具やクレヨンなどで思い思いの色をつけていました。高校生は文字をはっきりした色で目立たせることや、絵のどこに文字を入れるとバランスがとれるかなどについて、筆やクレヨンを実際に使って丁寧に教えていました。

高校生からは「普段教えることがないので、わかりやすく説明するのが難しかった」や「小学生がとても熱心に取り組んでくれたので、教えていて自分も嬉しかった」という感想があり、小学生を指導しようと試行錯誤する中で、教える難しさと楽しさを感じているようでした。

小学生は絵を作成する技法やコツを学び、高校生は教えることについて貴重な経験を得ることができました。また、終始穏やかな雰囲気の中で、お互いに交流を深め、自然と笑顔が増えていました。



南丹教育局ホームページ
<http://www.kyoto-be.ne.jp/nantan-k/cms/>

南丹教育局

検索

